遠足の列大佛へ大佛へ

藤田湘子

遍路に出ているうちに仏像が親しいものになり、お顔を拝するための旅に出ることも多くなった。

花や紅葉のいい季節に仏様に会いに行くと、決まって団体の行列と出くわす。バスツアーのバッジをつけた大人の一行、制服姿の修学旅行や児童の遠足の列であったり、いずれにしても賑やかで忙しなく、がっかりする。

そういう時はじっとして嵐が過ぎ去るのを待つが、静けさが戻るのはほんのいっときで、すぐまた次の団体が押しかけてくる。さりとて、季節の風物と人出はつきもの、悩ましいところである。

正字に固執した湘子の「大佛」は、いかにも奈良の大仏の感じがする。

１９８４年（s59.05.15作）第七句集『去來の花』　鑑賞・野本京